



発行責任者 前田 功
前田 功

【校長室より】

2 大行事終了、充実の秋へ

残暑厳しい9月4日(日)、全校生徒の参加により体育祭が行われました。当日は、本州に上陸した台風の影響も心配されましたが、暑くもなく寒くもなく、晴れでもなく雨でもなく、絶好の日和の中で実施することができました。けが人や熱中症の人も出ないまま終了し、生徒の最高のパフォーマンスを見ることができて本当によかったと思っています。

特に3年生の各団の指導者の生徒たちがすばらしかったと思います。団長が号令や指示を出し、団員がよくついていっていました。閉会式の際の校歌斉唱では、優勝した黄団を真ん中に各団が自然発生的に肩を組んで、みんな泣きながら校歌を歌っていました。ああこれが青春だな、と思ったのは私だけではなかったと思います。最後の後片付けもあっという間に終わりました。そしてプラザでの3年生の思いの丈を述べた解団式は、最高の思い出になったと思います。3年生の諸君、本当にお疲れさまでした。

また、1年生の集団行動、2年生の組体操は均整が取れていて、震えるほどの感動をおぼえました。今年は急きょ高所作業(クレーン)車を手配し、15mの高さから俯瞰的にビデオを撮ってみました。そこにバッチリ人文字の「光」や組体操の「五島灘」が映っていました。保護者の方の御協力があったからこそできたことなのですが、おかげで普段見られない映像が見られて貴重な記録となりました。ありがとうございました。

1週間後の11日(日)は五高祭でした。前日の土曜日のプレオープンの際は、雨が降ったので多少天候を心配しましたが、当日は青空が覗いて絶好の五高祭日和。今年はホント天候に恵まれました。有り難いことです。

今年の五高祭のテーマは「 」でした。オープニングの「縁・かかわり」を示す先生方の高校生時代の写真(校長自身の感想:非常に恥ずかしかったですね。まさか同級生の写真と一緒にスライド上映されるとは!!)の紹介から始まって、エンディングの「蒼き故郷」・校歌斉唱まで、一大叙事詩のように語り継がれ、歌い継がれました。合間には、各文化部や各クラスの展示やビデオ・劇上映、さらにはパフォーマンスなど盛りだくさんの内容で溢れていました。モザイクアートで表彰を受けた2年3組・1年3組の皆さん、おめでとうございます。他のクラスのモザイクアートも立派なものでした。全国総文祭のマスコットキャラクター「美龍(めいろん)」ちゃんもわざわざ本校にやってきてくれて、平成25年長崎で行われる全国総文祭の告知と五高祭の盛り上げに一役買ってくれました。

そして、生徒諸君、この2日間、おつかれさまでした。特にこの五高祭を企画運営してくれた五高祭実行委員の皆さん、大変でした。立派な五高祭ができあがったと思います。夏休み中から準備を行っていただきましたが、間に体育祭が入って、何となく準備が中断したような形になってしまっていて、どうなる事やら、と正直心配したときもありました。しかし、それを実行委員が一致団結してカバーし、この2日間の本番に結びつけてくれたと思います。大変な労力だったと思います。ご苦労様でした。

各文化部・各クラス含めて、ひょっとすると、人というのはなかなか思うとおり動いてくれないものだ、ということが実感として分かったかもしれません。あるいは、気持ちに通じたら、自分が思っているより以上に動いてくれるものだ、と分かってくれたかもしれません。そういうことを経験する意味でもすばらしい五高祭だったと思います。それぞれ中心的役割を担った人たちは、この本番のために苦労した日々を思い出し、今後の学校生活に活かしてほしいと思います。1・2年生の諸君は、それぞれ五高祭に対する思い入れがあったと思います。達成感、充実感を持って今後の学校生活に向かってほしいと思います。

3年生の諸君、いよいよ2学期の主要な学校行事も終わりました。充実の秋が今から始まります。後は自分たちの将来のために進路実現をめざして邁進するだけです。後から考えて、あの時が進路実現のターニングポイントだったな、と思えるときが来るように精一杯の努力を今後も続けてほしいと思います。先生方からいろいろと叱咤激励の言葉がかけられると思います。先生方を信じて、自分たちの力を信じて、そして五高生の底力を信じて頑張ってもらうことを期待しています。「天は自ら助くる者を助く」です。

第60回 体育祭 4日(日)

9月4日(日)、第60回五島高校体育祭が本校第2グラウンドにおいて行われました。台風の影響で前日までの設営作業が困難な状況でしたが、当日は風もおさまり、曇り空で気温も上がりず絶好の体育祭日和となりました。

今年の体育祭テーマは「煌星(きらぼし)」～熱き島人(しまんぢゅ)の結晶～でした。3年生の実行委員や各団役員を中心として「生徒が創り上げる体育祭」をめざし準備を進めてきました。

今年も各団練習を通じて、3年生が下級生に行進や演技の指導をする場面がみられ、日に日に団としての結束力、学校全体のまとまりが感じられるようになりました。当日の応援合戦や入場行進、3年生団別演技や応援団幕などの団活動は、すべてにおいてグレードアップし大変すばらしいものとなりました。また、各学年集団演技(1年生:集団行動、2年生:組体操)も見応え十分で、多くの声援と拍手をいただきました。

ご来場の来賓・保護者の方々からも「本当によかった。すばらしい。」「感動した!」という感想をたくさんいただきました。この体育祭を通じてすべての生徒がより強くたくましく成長したことでしょう。もはや五島高校伝統の体育祭。来年度はどのような体育祭が繰り広げられるのか楽しみです。

結果 総合優勝 黄団、応援優勝 黄団、団別演技優勝 黄団、応援幕優勝 黄団、行進優勝 赤団



黄団 団長 松園 智久(3-4)

今回の体育祭は、意見の食い違いから言い合いになりいろんな苦労がありました。しかし、そんなときにもお互いに理解し合おうと努力し励ましあうことで、体育祭でたくさんの賞を受賞することができましたが、そのこと以上に支え励ますことの大切さを学ぶことができました。

体育祭のテーマでもあった、煌星～熱き島人の結晶～を3年生だけでなく1、2年生と共に全員で体現できたと思います。黄団全員で勝ち取った総合優勝だと思います。

体育祭が終わるまで支えてくれた3年生、しっかりとついてくれた1、2年生、影から支えて下さった先生方に感謝したいと思います。本当にありがとうございました。

青団 団長 野口 修幸(3-5)

僕はこの体育祭を通して学んだことが沢山あります。特に団結力や仲間の大切さです。実は3年生同士で意見が衝突した時期もありましたが、そんな時支えてくれたのが仲間でした。とても忙しくて大変でしたが、仲間がそばにいて協力してくれたからこそ、あんなに立派な体育祭ができたのだと思います。この団結力を活かして受験の方も頑張っていきます。

最後に伝えたいことがあります。『1・2年生のみなさん、3年生についてきてくれてありがとうございます。おかげで、一生の宝物ができました。そして、来年は今年以上に盛り上がる体育祭となることを期待しています。青団最高、そして五高最高』

赤団 団長 眞弓 善哉(3-1)

今年、とてつもない不安と期待を持って、赤団団長を任されました。

私が担当する3年生は1組と2組。とても仲が良く、何事にも一生懸命に頑張ってくれるクラスでした。

最初の方は、とてもうまくいき、1、2年生も一生懸命に踊りを覚えてくれて、このままいけば絶対に優勝できると思っていました。

ですが、本番が近づくとつれて、どんどん問題点が上がってきて、それと同時に「本番成功できるだろうか。優勝させることができるだろうか。」と今まで感じたことの無い不安やプレッシャーで、自分が押しつぶされそうになることもありました。

でも、そんなとき助けてくれたのが仲間でした。励ましの言葉などをかけてくれて、こんなことに負けてはいけないと立ち直ることが出来ました。

本番では、みんな一生懸命に踊ってくれて、優勝は出来なかったけど、みんなとてもかっこよかった。

今回の経験は、これからの人生の糧となるでしょう。赤団団長で本当に良かったです。

体育祭実行委員 委員長 松倉 靖広(3-5)

私はすばらしい体育祭にするための力になりたくて体育祭実行委員長に立候補しました。しかし、いざ活動が始まるとうまくいかず、体育祭本番に間に合うか不安になりました。

そんな時、私を支えてくれたのは副委員長をはじめとした仲間たちでした。仕事をお願いしたときにはいやな顔一つせず引き受けてくれ、私が落ち込んでしまったときも励ましてくれて、本当にみんなで作り上げた体育祭となったと思います。

体育祭期間中、最もお世話になったのは山口先生です。先生がいらっしゃらなくては体育祭は成功できなかったと思います。ありがとうございました。

最初は不安で一杯でしたが、みなさん一人一人の頑張りにより、本当に感動的なすばらしい体育祭となったと思います。貴重な経験をさせていただきありがとうございました。



五高祭 10日(土)、11日(日)

9月10日(土)、11日(日)、五高祭が行われました。

今年の五高祭のテーマは、創立111周年にちなみ「111」の3つの数字の1から成る『 』、捉え方は自由!という挑戦的なものでした。各クラス・各文化部が豊かな視点で表現し、精一杯の力を出し切ってくれました。

例年と違い体育祭後の開催ということで、生徒たちは準備面で戸惑いや不安が大きかったようです。そんな中でもより良いものを創ろうと、時には衝突しながらも協力し合う姿が見られました。そして迎えた当日は、たくさんのお客様が見つめる中での発表に、大きな達成感を味わっていたようでした。五高祭実行委員たちは、5月のテーマ発表から五高祭当日までの長期間にわたって陰になり日向になり大活躍でした。代休日の部活動の練習の合間に、部活動生は設営作業を快く引き受けてくれました。バザーではPTAの皆様のご協力と3年生の爽やかな接客の姿勢のおかげで、大盛況でした。各クラスの文化委員、各文化部の部長は言うまでもなく、会場内の美化に尽力してくれた美化委員をはじめとして、数え上げればきりが無いほど本当に多くの人の頑張りや協力があった創りあげられた五高祭でした。本当にありがとうございました。

エンディングセレモニーでは、校歌斉唱の最後に生徒・職員・一般のお客様の未来に向けた希望のメッセージ付の風船が体育館を舞い、2日間のフィナーレとなりました。舞い降りてくる風船を見つめる生徒たちの充実した表情が印象的でした。

この五高祭で感じた『 』は、人それぞれだったでしょうが、そこにはきっと周りとの「つながり」が存在していました。その大切さに気づくことができたのなら、それだけでも大きな収穫だったはず。さて、来年はどんな五高祭を創り上げてくれるのか、大いに期待したいと思います。



文化祭実行委員 委員長 土井 美佳(2-1)

五島高校創立111周年目の今年は「1」が3つ並ぶ貴重な年であり、昨年の110周年から新たなスタートをきる年でもあります。そこで、私たち実行委員は五高祭のテーマを『 』としました。はじめは全校生徒に受け入れてもらえるか心配でしたが、五高生一人ひとりがテーマを自由に捉え、五高祭を盛り上げてくれました。また、今回初めて1・2年生合同の巨大モザイクアートにも挑戦し、試行錯誤を重ねて出来上がった作品を見たときには達成感がありました。

私たち実行委員は夏休み前から本格的に準備を始めました。今回は実行委員の人数が多く、作業ははかどるものの、話し合いがうまく進まなくて悩んだこともありました。また、私は委員長として今まで話したことの無い人にも指示を出さなければならず、初めは戸惑いもありました。しかし、みんなで放課後遅くまで残って準備をし、苦しい時間を共に乗り越えた今、実行委員にならなければ話すこともなかったかもしれない人とも仲良くなり、実行委員になってよかったと思いました。五高祭は終わりましたが、このメンバーを中心にこれからも五島高校を盛り上げていきたいと思いました。

私が今回のテーマ『 』から感じたのはやはり『つながり』です。汗と涙を流して五高祭を作り上げた実行委員、サポートして下さった先生方、忙しい中クラスや部活動で準備をしてくれた五高生のみんな、当日暑い中見に来て下さった保護者や地域の方々...全ての人との『つながり』を感じ、感謝でいっぱい。たくさんの人との『つながり』で成功した五高祭。苦しいこともあったけれど、忘れることのできない思い出になりました。

モザイクアートコンテスト最優秀賞(2-3)

2年3組は「PIZZA」という題で、モザイクアートを作成し、最優秀賞をいただくことができました。テーマ決定が最後までずれこみ、当初は不安でしたが、その後はクラス全員が協力して取り組み、いい作品を完成させることができました。生徒にとっても、協力してひとつのものをつくり上げ、結果を残すことができ、いい経験になったと思います。



3 学年集会 6 日（火）

9月6日（火）、第3学年の学年集会が行われました。3人の先生方と体育祭各団長が話をしました。初めに学年主任より、「ほしいものを手に入れることは簡単ではない」「受験も人生の中の勝負の1つ」として、もう一度原点に戻って、仲間とともに目標達成のための頑張りを見せてほしいという話がありました。次に靄田教頭先生から、3学年の現状を踏まえ、「手ごわい自分をどうコントロールするか」「頼れる自分づくりをどうするか」「もっと攻めていく学習が必要である」「自分の気持ちを形にする、もっと行動に表す必要がある」など今の3年生がもっと追及しなければならない数多くの言葉をいただきました。続いて内野先生より、3年間担任として生徒達と一緒に駆け抜けてこられた熱い想いとこれからの進路実現に向けての期待が込められたお話がありました。そして体育祭の赤青黄団の団長が、体育祭においての感謝の気持ちと切り替えについてそれぞれの言葉で熱く語りました。最後に生徒、先生方全員で気合いを入れて、終わりました。

体育祭、五高祭も終わりました。いよいよそれぞれの進路実現に向けて、力が試される時がきました。センター試験まであと100日ほど、准看資格試験まで150日を切りました。生徒、教職員そして保護者の皆様方が力を合わせ、来春に向かって頑張っていきましょう。ご協力をよろしくお願いいたします。

一日救急隊長 9日（金）



救急の日の9月9日（金）、平成23年度「救急医療週間」に伴う行事の一環として、「五島市一日救急隊長」に衛生看護科3年生の中野敏邦君が任命されました。

五島消防署内で救急車の説明を受けた後、ダイキョウバリューに移動し、一般市民向けの啓蒙広報運動を行い、広く市民の皆様々に救急医療について理解していただくよう呼びかけました。また、傷病者発生との想定で通報から病院搬送までの模擬訓練を体験し、救急車に同乗して“命のリレー”について学ぶ機会となりました。

〔感想〕衛生看護科3年 中野 敏邦

今回、一日救急隊長として、救急車の見学、啓蒙運動、また模擬救急出動訓練など、多くのことを体験させていただきましたが、私たちが安心して生活できるのは、消防署や保健所の方々、そのほか救急医療に携わる多くの方々のご苦勞があつたことだと、よくわかりました。

私は、衛生看護科で日々、看護について学んでいますが、今回の体験により、看護と救急は密接な関係があることを再認識しました。将来、医療従事者になる者とし、今回学んだことをもとに頑張りたいと思います。

衛生看護科集会 20日（月）

9月20日（月）に衛生看護科集会が行われました。最初に教頭先生から、ご自身の入院経験をもとに、看護師に求めること、そして看護師になろうとしている衛生看護科の生徒へのメッセージをいただきました。次に、3年生の中崎麻伊さんの発表では、受け持った患者さんの事例や死後の処置の場面に立ち会って感じたこと、そしてこれから資格試験に向けて頑張りたいことが熱く語られました。最後に衛生看護科主任の田代先生から、病院勤務の経験をもとに「ナース服を着る」ということについてのお話がありました。10月19日の戴帽式では、衛生看護科の生徒全員がナース服を着て式に臨みます。ナース服を着るということは責任が伴うことを生徒1人ひとりが自覚し、凛とした服装で式に臨んでほしいという熱い思いが伝えられました。

1年生はこれから今以上に本格的に専門の学習が始まりますし、2年生はいよいよ病院実習が始まります。また、3年生は10月中旬に実習が終了し、いよいよ受験に向けて頑張らなければいけません。衛生看護科の生徒全員が、自分が今すべきことをしっかりと行い“キラリとキラリ”と輝いた日々を送ってくれることを願います。

校内読書感想文コンクール

9月20日（火）のLHRの時間において、1年生と2年生を対象とした、校内読書感想文コンクールを実施しました。このコンクールでの対象作品は、生徒の皆さんが夏休みに書いた読書感想文の中から選ばれた5点です。その結果は以下の通りです。

最優秀賞	1年	谷尾 碧紀		
優秀賞	2年	鹿垣 圭史	2年	轟 千尋
佳作	2年	谷元 雄壽	2年	田口 遙

福江みなとまつり

本年も10月1日（土）、第35回福江みなとまつりに生徒、保護者、職員合わせて約200名が参加する予定です。吹奏楽部の演奏するマーチング、サンバ、校歌が沿道に響き、校歌演奏に合わせて、口ずさむ市民の姿が今年も見られることでしょう。

休日の夜間、中間考査直後にもかかわらず、参加してくれる有志の生徒諸君、ならびに保護者の皆様々に心より感謝いたします。生徒が主役の五高ねぶた。今年もさわやかな印象を五島市民に与えてくれることでしょう。ぜひ、当日は生徒たちの姿をご覧くださいと思います。